

近森リハビリテーション病院 リハビリテーション部

部長 小笠原 正

はじめに

2023年度はPT 6名、OT 5名、ST 1名を採用しリハビリテーション部の運営をおこなった。また、新型コロナウイルス感染対応が5類へ移行され対応も徐々に緩和されていったが、クラスター発生の時期もあり感染には配慮しながら部の運営を行った。

運営・取組み

組織運営に関しては、昨年に引き続き、PT、OT科、それぞれ各ユニットに1名ずつ療法士長又は主任を、ST科は各階1名の主任を配置し運営を行った。またコロナ対応として訓練室のエリア分けや、入院と外来リハの実施場所を分け、クラスター発生時はフローア完結体制を取るなど、制限もあながらの運営をおこなったが、リハ部全体では、若干ではあるが各科の努力で2022年度より実施単位数を増やすことができた。

研修や推進課題については、各科オンラインでの研修に参加した他、対面での学会にも参加し、2022年度よりは発表数も増やすことができた。また、セラピストマネージャーの研修にOT、ST1名ずつ参加し資格を取得することができた。また本年度より、資格取得者に対して1資格5000円のインセンティブ制度を設け、リハ部で44名のセラピストが対象者となり、今後、資格取得のモチベーションアップにつながると期待している。以下各科の具体的な取り組みについて述べる。

PT科では、病床稼働に合わせ単位数の調整を行い、効率的な業務ができる体制を取った。また、教育面では、日本理学療法士協会の生涯学習制度に対応できるよう、院内研修や研修会、症例検討会などを計画的に行い、学術活動では、神経理学療法学会に2演題、リハケア合同研修大会に3演題を発表した。

OT科では、1ユニット5～6名体制で運営を行ったほか、施設間ローテーションを積極的に行い経験値の向上に努めた。教育面ではOJTを重視した教育体制をとり、上肢ロボット、CI療法、ADL・IADL・高次脳機能・自動車運転の専門チームによる活動も行った。

ST科では、各フロアに4名のスタッフを配置し運営を行った。また摂食機能療法対象者の絞り込み、疾患別リハビリテーションを主軸に置いた対応の結果、昨年度を超える単位数を実施できた。教育面ではバイタルスティムの効果を調査・研究目的でマニュアルなどの作成にとり組んだ。

終わりに

2023年度は、新型コロナウイルス感染対応が5類へ移行されたが、感染には配慮しながらの運営となった。また昨年に引き続き訓練体制の見直しや、研修体制の見直しを行いながら組織運営を行い、資格取得のインセンティブ制度の導入なども行うことができた。

次年度は本年度の経験をもとに、臨床・研究の分野でもより積極的な取り組みを行いたいと考えている。